

日本英語教育史学会 会報

299

2020 年 10 月 24 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 江利川春雄)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
 ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
 ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第279回研究例会報告

2020 (令和 2) 年 9 月 19 日 (土), 第 279 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 26 名でした。

例会では 2 本の研究発表が行われました。はじめに, 平井清子氏 (北里大学) が「台湾の高等学校英語教科書で取り扱われる「文学教材」の特色—1995 年「課程標準」, 2008 年「課程綱要」準拠版教科書から」というタイトルでお話しされました。続いて末澤奈津子氏 (神戸大学大学院後期博士課程) が「高校教科書の登場人物における男女のジェンダー表象について 無意識のバイアスの視点による比較調査」というタイトルで発表されました。司会は河村和也氏 (県立広島大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は平井氏の発表, ②は末澤氏の発表, ③は会全体に対する感想です)。

◇ ◇ ◇

◆①台湾の検定団体と仕事上つながりもある関係で, かの国の英語教育には興味があり, 課程も読んでおりました。また, 私自身がシェイクスピアシアターの俳優養成所で一時期, 朗読や演技を練習していたこともあり, 一体, 文学では何をするんだろうと興味津々でした。結構, 哲学的なのねとびっくりしました。教員養成ではどんな工夫があるのかなと, 平井先生に質問したい気分です。 (匿名希望)

◆①台湾の高校英語教科書における文学というテーマでの緻密な分析から, 文学教材が深い学びに関わっていることを知ることができました。また, 読んだだけで終わらずにそれを発展させる活動が用意されているのを画像で見せていただいて参考になりました。台湾の高校生は文学教材をどのように評価しているのか, 他の教材との受け止め方の違いはあるのか, 今

後調査されることがあればまたお聞かせいただければと思います。 (安部規子)

◆①日本の英語教科書から文学作品が消えつつある中で台湾の高校英語教科書の題材内容の分析についてのご発表をとっても興味深く拝聴させていただきました。文学作品から高校生に必要な人生観, 倫理観, 恋愛観などを育む, ことのできる英語教育, これが最終目的だと思います。「文学」を題材にするだけでなく, 「思考力」を鍛える工夫がされているのはとても魅力的です。ただ, このような英語教育が実践されている台湾の「入試制度」, 「国民性」は日本と比べてどのようなものでしょうか。私自身, 「思考力」を鍛えることのできる授業を個人レベルで心がけていこうと気持ちを新たにさせていただきました。平井先生, ありがとうございます。 (Rainbow)

◆①いつものながらの緻密な調査で、台湾の高校英語教科書における文学教材の特色について、たいへん明快地にプレゼンいただき、知的興奮を味わいました。日本で文学教材といえば、読んで訳して解説といった定型で、「コミュニケーション重視」と対立するイメージです。しかし、台湾の場合は4技能をフルに使い、理解→練習→創作といった流れによって論理的・批判的思考力をも育てるという教材構成になっており、コミュニケーション重視と共存できます。そのことも文学教材が根強く残る要因ではないかと思いました。日本の教科書および指導法に大きな示唆を与えるご発表でした。(みかん舟)

◆①台湾の高校教科書では日本より文学教材の比率が高く、それだけ重視していることを具体的に説明されてよく理解できました。特に詩の扱いが多いとのことで関係当局(者)の以後教育に対する見識のようなものを感じました。日本の高校では、コミュニケーションばやりで文学教材はどんどん減っているようで残念です。文学作品を通じて言葉のすばらしさを感じられる教育を期待したいのですが、「仮定法過去？」でしょうか。(JH4DGW)

◆①台湾の多くの英語教科書を分析されており、英語教科書の分析方法という点で大変勉強になりました。ありがとうございます。

少し注文をつけさせていただくと、日本の英語教育へ応用するといった場合、日本の学習指導要領の特徴を踏まえることが不可欠だと思います。文部科学省は学習指導要領に法規性があるとしており、学会等の教育内容の研究開発は事実上、制限されています。これをどうやって乗り越えるのかを示して欲しかったです。

(広川由子)

◆①台湾の教科書で、詩に関わる課が充実しているのが興味深かったです。個人の経験ではありますが、私が大学で英語を教えた時、比喻表現を英文から探し、その由来やイメージを皆で話し合ったり、自身で比喻表現を創作する活動

を行ったことがあります。予想よりも学生が意欲的に取り組んでくれたことを覚えています。また、全員ではありませんが、論説文やエッセイよりも、小説を英語で読むことに好意的な学生が多かったです。小説は没入感が高いのかもしれない。イシグロカズオの *The Remains of the Day* を題材に取り上げましたが、好評でした。現在の日本の大学入試の傾向を踏まえると、高校の教科書に小説を含めることは難しいかもしれませんが、詩や小説には我々が考える以上の魅力が多分に含まれているということを、今回のご発表で改めて感じました。ただし、質問にもあった通り、教育現場を考えた時に、どれだけ教科書が充実していても、それがどのように扱われているかは別問題であるため、その点が難しいところだと感じました。

(ポレポレ)

◆①台湾では文学教材が思考力の育成に寄与するものとして教科書に取り入れられていることを知り、日本の英語教科書のあり方を改めて考えさせられました。現代の日本の教育政策においても思考力の育成は大ききなテーマとなっておりますが、今回のご発表はその課題に対し一つの方向性を与えるのではと思います。他方、台湾の教科書が足場かけ機能として考え方を提示することは、ともすれば考える機会を奪うことになるのではないかと、海外(おそらくアメリカ)の SLA 研究に影響を受けている台湾の英語教育が示すモデルを享受するというイデオロギックの問題はどうなのか、という疑問を持ちました。平井先生の今後の研究を追うと同時に、私自身上記の疑問と向き合っていきたいと思いました。(孫工季也)

◆②私は量的分析からじわじわ炙り出される、無意識のバイアス的な研究はたまりません。集団意識の奥底を覗かれている感じで、このような研究は多くの教育関係者に読まれるべきと思いました。また、田邊先生の苦悩も印象的でした。(匿名希望)

◆②将来の高校英語教科書について大きな課題を指摘されていたと思いました。高校英語教科書における LGBT の扱いについては、その学校全体の人権問題への意識や日常的な取り組みがカギになるのではないのでしょうか。もしかすると生徒の方が小中学校から教育を受けてきて、意識が高いかもしれませんが、高校の教員がその問題に対して十分な認識があるのか、実際に教室にいる生徒を教員がよく理解しているか、クラス内の生徒同士の関係はどうか、を考える必要があるでしょう。それによって現場から求められる教材(=売れる教材?)かどうかが変わってくると思います。(安部規子)

◆②子供の頃から、ずっと「男女不平等」に不満を持ち続けてきましたが「無意識のバイアス」によるものであったかとお発表を拝聴させていただきながら胸がスカッとしました。単なる感情論ではなく、教科書の登場人物をしっかり調査された上での客観的な結果にとっても感動しました。「教科書の内容は必ずしも男女平等ではない」ことを理解した上で生徒たちへ意識的に「男女平等」ならず「人類みんな平等」、男女、年齢、人種、職業等に関係なく、人はみな尊く平等である、ことを「英語教育」を通じて伝えていきたいと思います。末澤先生、とても心強いご発表をありがとうございました。

(Rainbow)

◆②教科書の題材論研究は、どのような人間を育てるかという英語科教育の根幹に関わる重要分野ですが、昨今のスキル主義の潮流の中であって、研究者が少ないのが残念だと思っていました。末澤先生のご発表は、ジェンダー・バイアスに焦点を当てて丹念に調査・考察された貴重な題材論研究の成果であり、知的刺激に富んだ内容でした。教科書は人間社会の鏡であると同時に、人間社会の形成に大きな影響を及ぼしますから、ジェンダーの平等化にむけた社会変革と教科書改革を同時に進める必要を感じました。新内閣の顔ぶれをみても、相変わらず

のオヤジ政治。でも、少し前までセクハラという概念すらなかったのですから、希望をもって平等と協同の教育と社会をめざしましょう。そんな前向きな気持ちにさせるご発表でした。

(みかん舟)

◆②少し捻くれています、もしもジェンダーをなくそうとするなら、むしろジェンダー観を表出した(英語)教科書を使って教員が生徒たちに批判的に議論させることの方が有効ではないのでしょうか。その方が格好の教材になると思いました。そして一応、それを目指しているのが現行の道德の「特別の教科」化ではないでしょうか。(広川由子)

◆②無意識のジェンダーバイアスが生じている点を、量的な観点から明快に説明してくださり、非常に納得のいく内容となっていました。質問で挙がっていた内容と重複するかもしれませんが、教科書におけるそのようなバイアスを完全に排することは果たして必要か、という点について、私は不要だと考えています。教科書は市販の学習参考書と異なり、独学用ではなく、教室内で使用されることが想定されているはず。言い換えれば、教科書には教員という存在が必ず介入するものだと考えています。そうであるならば、教科書における無意識のジェンダーバイアスを排するよりも、教員がそれらを理解していれば、そのバイアスを生かした授業を構成することが可能となり、教授の幅が広がるように思われます。教員次第という点は否めませんが、教科書は教員との相乗効果によって成り立つものだと考えるならば、そういった意味での「余白」が教科書にもあって良いのではないかというのが、今回のご発表を通じて感じたことです。以上のような点を改めて考える機会を与えてくださり、心より感謝申し上げます。(ポレポレ)

◆②「男女平等」は今日重要な社会の課題であり、一見それに向かって動いているように見えますが、「無意識のバイアス」という自分が知

らなかつた概念を示されての英語教材の見方に感心させられました。(JH4DGW)

◆②高校英語教科書が持つhidden curriculumの問題をジェンダーの視点から研究された末澤先生のご発表より多くの示唆をいただきました。男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法などの法令化を経た2000年代の教科書が2017年の教科書よりもジェンダー配慮があったというご発見から、まさに「題材は社会通念に左右される」ことを実感させられました。他方、2017年の教科書におけるジェンダー配慮の減少を「タブー」という言葉でまとめられましたが、その「タブー」の裏にはどのような「社会通念」があったのかは疑問が残りました。また、これまでの英語教科書のジェンダー研究がLGBT(Q)の視点を持たない男女の二項対立的観点からの研究であったという指摘をご自身が今後どのように乗り越えられていくのか楽しみです。(孫工季也)

◆③プレゼンの時間も適度で、また質疑応答に多くの時間が用意され、いろいろな視点が共有されて素晴らしい会だったという印象です。私自身、学びが多かった。最近、外山正一、岡倉由三郎など明治中期から大正初期に活躍された方々に俄然興味を持ち出したもので、例会に参加しましたが、歴史という観点は結構広がりがあるのねと感心しました。また、参加いたします。(匿名希望)

◆③コロナ禍を嘆くよりも、どうポジティブに乗り越えていくかを見事に実践したオンライン例会でした。高額の旅費もいらず、日ごろお目にかかれない人にも「会え」、討論も活発で、質・量ともにとっても充実した例会になりました。この調子なら、懇親会もオンラインで行えると実感しました。飲食店を助けるためにも対面式の懇親会も必要でしょうが、席の移動の大変さを考えると、誰とでも気軽に話せるオンライン懇親会もやりたいなと思いました。懇親会の途中で、話題にのぼった文献や資料などの提示も

できますし。なお、今回はレジュメがありませんでしたが、事前にいただける工夫があればありがたいです。(みかん舟)

◆③勤務校ではteamsというのを使っているため、Zoomは今回初めての経験でしたが、何の問題もなく学会に参加することができました。河村先生の進行も、ご発表の先生方も手際よく進められていてとても分かりやすかったです。周到なご準備ありがとうございました。今後もこの形式で例会が行われるとのことですが、自分自身が発表者になった時に、今回の皆様のようにスムーズにはできない自信があり、それだけが問題です。(安部規子)

◆③近所の高校生が自宅待機中の授業で使っているというZOOMは、新型コロナ禍の中でよく聞く用語でしたが、実際に使ったのは今回初めてでした。実際の参加者の顔や発言内容が分かり、また、プレゼンテーションソフトの内容も表示でき、非常に便利なものだと感心しました。今後も活用が期待されると思います。ただ、会の雰囲気、緊張感などが感じにくいのは仕方がないことでしょう。また、会後の懇親会ができないのがZOOMの最大の欠点？かもしれません。(JH4DGW)

◆③オンラインによる開催も、特に滞りなく進行していただき、改めてご準備に携わってくださった全ての皆様に感謝申し上げます。極めて個人的なことで恐縮ですが、通常の月例会や全国大会の後で行われていた懇親会は、オンラインの場合開催されないのでしょうか。オンラインという利便性を考えると、終電などを考える必要もなく、遠方の方ともお話をさせていただける良い機会となるのではないかと考えています。Zoomにはブレイクアウト機能があり、参加者を複数のグループに分けて会話を行うことも可能かと存じます。良い機会と考え、発表者を含めた皆さんとも色々なお話をさせていただきたくれば、何よりも幸いです。

(ボレボレ)

◆③ (Zoom を利用した例会の開催について)
 コロナ禍においては、この方法が安全で遠方の方も参加しやすいので有効だと思います。しかし、これが大会や例会のスタンダードになってしまうのはちょっと危険だと思います。

(広川由子)

◆③初めて、ZOOM を使用してのオンライン例会参加を前に、とても緊張と不安でいっぱいでしたが、とても快適でした。自分の部屋にしながらして有益なご発表を拝聴できるなんて、とてもぜいたくなことです。また、対面式よりよく頭に入ってきたように感じます。オンラインとはいえ、先生方の顔を拝見したとたんとても緊張しましたが良い刺激になりました。ひとつ提案ですが、例会の後に「懇親会」を「オンライン」で行ってはいかがでしょうか？ アルコールはなくても、情報交換や意見

交換等ができればと思います。ただ、オンラインでの大人数でのフリートークはむしろかしいでしょうか・・・お世話くださった事務局の河村先生、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

(Rainbow)

◆③河村先生をはじめ多くの先生方のご尽力の上に本例会の開催があったこと、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

会自体はこれまでと変わりなく学びの大変深いものであり、またオンラインだからこそお会いできる方々もおられ、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。オンラインの良さを実感しつつも、他方で直接顔を合わせることができるからこそある学びや出会いもあるとも思います。両者の利点・欠点を踏まえた次回以降の例会・大会を心待ちにしております。

(孫工季也)

<発表を終えて>

平井 清子 (北里大学教授)

第 279 回研究例会では大変お世話になりました誠にありがとうございました。はじめての Zoom を使用したオンライン研究例会でしたので緊張いたしました。事務局のきめ細かいサポートのおかげで滞りなく発表させていただきましたことに、まずは感謝申し上げます。全国から会員、そして会員以外の先生方にもご参加いただけたことは、オンラインの賜物と存じます。おかげさまでご参加の先生方から有意義なご質問・ご意見をいただけてとても勉強になりました。また、本発表を通して、1995 年以降、現在に至るまでの台湾の高校英語教科書で取り扱われる文学教材が、どのような学力を培うよう設計されているか、そして、どのような言語活動・指導方法が使用されているかを、先生方にお伝え出来たことが何より嬉しいことでした。

本発表では、台湾の英語教科書の題材内容で重視されている文学教材が、現在、日本の英語教育で課題となっている「論理的・批判的思考力、創造力、表現力」の育成に、その「題材選び」と「指導法」において応用可能な点を提案することを試みるものでした。いただいたコメントや質問は、「指導書」の在り方や台湾の「課程標準」「課程綱要」と日本の「学習指導要領」との比較、そして、「英詩」の取り扱いと米国の国語教育、英語教育との関連、さらには日本の明治時代の教育との関連など多岐に及ぶものでした。今後の研究にご示唆いただき、深く感謝申し上げます。

<発表を終えて>

末澤 奈津子 (神戸大学大学院後期博士課程)

この度は、コロナ禍でのオンラインでの定例会にて貴重な発表の機会を感謝申し上げます。

人間、誰しものが持つ価値観や物事の判断基準は、無意識下で偏見や差別意識が形成され自身が意図しない場面においても、大きな影響を与えることが報告されています。今回の発表は、男女平等や中立の前提で作成された教科書における男女の表象の差異を 2000 年と 2017 年の高等学校の教科書を元に報告させて頂きました。

最新の教科書では、典型的な教科書の男女不平等と謳われていた家事・育児に従事する女性像や、男性の家事の分担の国際比較の話題など、男女を区分しないことが教育的配慮とも思える程、題材や内容にジェンダーは登場しませんでした。これは、1つの観点から見れば、男女平等を意識した構成であり、別の観点から見れば、社会に根深く存在する男性にも、女性にも当てはまるジェンダー不平等の話題について話し合う機会を奪うことにも繋がります。

教科書「を」教えるか、教科書「で」教えるかは、最終的には教員の力量ですが、男女を超えた多様な個人や集団間の関わり合いの中での他者理解のために、自覚的に教科書にも、自身にも潜むバイアスを自省する契機になれば幸いです。

最後になりましたが、発表の機会のお声掛けをして下さった川嶋先生、大量の資料を快くお貸し下さった江利川先生に改めて感謝申し上げます。

)) 英語教育史フォルダ

- ◆ 姫野順一監修『資料に見る長崎英学史：日本における英学と英語教育の発祥』長崎外国語大学新長崎学研究センター発行、2020年7月刊。本体2,000円。

内容は、①長崎英学の開拓（『長崎における英語教育百年史』復刻版と解題など）、②古賀十二郎の英学史（解題 古賀十二郎『長崎洋学史』上巻・英語の部；古賀十二郎の英学研究に関する一考察；古賀十二郎著『長崎洋学史』上巻の部分復刻と解題など）、③長崎英学に関する資料（フルベッキと本間郡兵衛：年譜と資料；英語学習黎明期における英語辞書、文法書、学習書）。

)) 新入会員

- ◆ 生谷 大地（いくたに だいち）東京都 東京大学大学院生

)) この先の研究例会

新型コロナウイルスの感染状況については、依然として不透明な状況が続いています。移動の制限は解除されたとは言え、対面による会合を催すことは困難と考え、9月以降、今年度の研究例会については原則として Zoom を用いたオンラインの形態により開催することとします。

- ◆ 第 280 回研究例会 2020 年 11 月 21 日（土）14 時より
- ◆ 第 281 回研究例会 2021 年 1 月 9 日（土）14 時より
- ◆ 第 282 回研究例会 2021 年 3 月 20 日（土）14 時より

オンラインでの会合には相当の疲労がともないます。Zoom を用いた例会の開催にあたり、通常の研究例会よりも短い発表も可能としました。発表時間は次の 2 種類です。

- 70分（研究例会発表規程に準ずる）
- 25分（全国大会発表規程に準ずる）

Zoom を用いるに際し、参加希望者をあらかじめ確定しておく必要があります。以下の手順を踏んでいただくこととなりますのでご承知おきください。

- (1) 公式ウェブサイト上に用意される《参加申込フォーム》に必要事項を入力し送信してください。
- (2) Zoom ミーティングのリンクやパスワードが記載された事務局からの《電子メール》を受信してください。
- (3) 研究例会の当日、定刻になりましたら電子メールに記載されている《リンク》より Zoom ミーティングに入ってください。

インターネットの環境をお持ちでない会員のみなさまにはご参加いただくことがかなわず、まことに心苦しく存じております。現況に鑑み、どうぞご容赦くださいますようお願い申し上げます。

日本英語教育史学会 第 280 回 研究例会

日 時： 2020 年 11 月 21 日 (土) 14:00~17:00

オンライン開催：詳細は学会ホームページをご参照ください (<http://hiset.jp>)。

研究発表①

「英学史・英語教育史研究における英単語集の定義 —他の英語教材との比較を通して—」

熊谷 允岐 (立教大学大学院生)

【概要】本研究の目的は、英学史・英語教育史研究における英単語集（以下、単語集）という教材が意味する範囲を明確にし、単語集が本来持っていると考えられる機能、およびその特徴を明らかにすることである。本研究は英語参考書研究、特に単語集研究に取り掛かるうえでの根幹を担うところであり、当該分野の研究における一方法論を提唱するものである。

単語集の研究を行うにあたり、それらの収集や分析が必要となるのは当然だが、これまでの研究において、単語集が一体どのような教材を指すのかについての議論は行われていない。しかし特定の領域の発達史を研究・考察するには、この点を明らかにすることが重要である。なぜなら「単語集とは何か」という問いに答えることが、収集した資料群を単語集だと立証し、より説得的に論を進めることに繋がると考えられるからである。

本研究では第一に以下の先行資料：

1. 『大阪女子大学蔵 日本英学資料解題』(1962)
2. 『マイクロフィルム版 初期日本英学資料集成』(1976)
3. 『大阪女子大学蔵 蘭学英学資料選』(1991)
4. 『神田佐野文庫所蔵 若林正治コレクション英学資料目録』(2018)

における「単語集」ということばの使われ方を概観し、比較を行った。その結果、「単語集」には複数の呼称があり、それらは明確に使い分けられているわけではないことがわかった。そして「単語」にかかわる用語の意味する範囲も研究によって不統一さが見られた。櫻井(2000)の指摘に倣えば、それは研究によって単語集を「広義」でとらえる場合と、「狭義」でとらえる場合に大別されるからだという。しかし、各先行資料がそのどちらを踏まえて教材を分類しているのかは判然

としない。また、そのどちらかを念頭においていたとしても、それは一体どのような教材であるのかについての規定がないまま今日に至っていることが改めて確認された。そこで本研究では第二に単語集の位置づけ、特に「狭義の単語集」とは何かを明らかにするため、単語集との混同が予想される教材、すなわち辞書・語彙リスト・単語帳との比較を通して、単語集の有する条件を導き出した。ただし、本研究で導き出した条件のみでは、単語集だと判断することが困難な英学書も複数存在する。そのような英学書に対しては、書名・体裁・時代背景などのさまざまな観点からより慎重な検討が必要となるものの、本研究で提唱する単語集の条件が、そのような検討をより円滑にするためのきっかけとなれば幸いである。

研究発表②

「日本の英文典における Complement の導入について」

川嶋 正士 (日本大学教授)

【概要】本発表では明治期の日本の英文典を調査した結果、Complement という文法用語がどのように紹介され、またどのような問題があったのかについて明らかにすることを目的とする。

故伊藤裕道氏の研究では、Complement という概念が日本で初めて紹介されたのは斎藤秀三郎が 1884 年に出版した William Swinton の小文典と呼ばれる New Language Lessons (1877) の訳述書であるとされるが、これを 2 年さかのぼる William Douglas Cox による A Grammar of the English Language for Japanese Students に Complement の記述が見られることがわかった。

1844 年にロンドンで生まれた Cox は、1876 年に駒場農学校の英語教師として招聘され、その後東京大学予備門及び第一応答学校で教鞭をとるなど、1905 年に没するまで日本の英語教育に携わった。

日本人学習者のための英文法書が刊行されたのは、来日から 6 年がたった時であり、それまでの日本での教授経験が生かされたと思われる。

Cox は、ドイツや英国において影響力があったが、当時の日本では認知度が低かった Eduard Adolf Maetzner の文法書などを参照したが、Complement に関しては、Swinton 小文典に倣い、いわゆる主格補語のみを認めた。

発表においては、主として以下の点について考察する

- ・ Swinton 小文典式の Complement の扱いの淵源と目的格補語について言及しなかった理由
- ・ 日本の英文典で目的格補語が見られるようになった経緯

参加費：無料

問合せ：日本英語教育史学会例会担当 ([reikai\(at\)hiset.jp](mailto:reikai@hiset.jp)) ←(at) を @ に変えてください。

EDITOR'S BOX 今回の例会は初めてのオンライン開催でしたが、参加者のみなさまからいつもよりも感想をたくさんお寄せいただき、編集に携わる立場としては大変助かりました。/コロナウイルス感染拡大は一段落している状態ですが、まだまだ油断できません。みなさま、どうかご自愛くださいますよう。(若)

© 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 geppo@hiset.jp)